

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成5年9月20日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	21番 神田 守隆
22番 福原 勤	23番 石井 昌治
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

20番 生稻 隆

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 渡辺 富雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 三平 孝司
水道課長 谷貝 実	教育委員会 高橋 博夫
	教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 鈴木 哲
書記 四ノ宮 朗	書記 安田 仁一
書記 小山 真	書記 松浮 郁夏

1 議事日程（第3号）

平成5年9月20日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|--------|---|
| 日程第1 | { | 議案第46号 | 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第47号 | 館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第48号 | 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第49号 | 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第50号 | 館山市婦人会館の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について |
| 日程第2 | { | 議案第51号 | 平成5年度館山市一般会計補正予算（第2号） |
| | | 議案第52号 | 平成5年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第1号） |

開 議 午前10時01分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第46号乃至議案第50号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) 既に通告をいたしました諸点についてお尋ねをいたします。

議案第46号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についてお尋ねをいたします。来年度の固定資産評価の評価がえに伴う増税の緩和措置と理解いたしますが、土地などの固定資産の評価についてはさまざまな評価が存在するため、この評価を統合していこうということで、今回固定資産税課税のための評価額を公示地価の7割相当ということで評価額とするというふうに聞いております。だといえますと、固定資産の評価額は従来と比べますと大幅に増額になるものと思われます。場所によっては10倍以上にもなるというケースも珍しくないものと言われております。評価額が上がれば、これに税率を掛けて算出するのが固定資産税であり、都市計画税であります。単純に考えれば、大增税になりかねないわけであります。

そこでお尋ねをいたしますが、例えば館山市では現在の地価公示価格は現在の固定資産評価額と比較しておよそ何倍ぐらいになっているのか、市内全体の傾向を知りたいと思いますが、例えば駅周辺の土地ということで具体的にお示しを願いたいと思います。

次に、こうした評価がえは固定資産税や都市計画税の算出基礎になっているわけであります。今回の措置はこれらの評価がえに伴う増税の緩和措置だと理解するのでありますが、実際にはこれらの結果どのくらいの増税になるものと理解できるのか。大增税になるのではないかと不安を感じるところでありますので、具体的に税額の面でどうなるのかお示しをいただきたいと思うのであります。

次に、議案第47号館山市手数料条例の一部を改正する条例の制定についてであります。住民票などの発行手数料をこれまでの200円から300円へと値上げをこの10月から実施しようとするものでありますが、もともと今年度の当初予算の中で10月からの値上げは予定されてはいませんでした。だといえますと、果たしてこの10月から実施するというその値上げの緊急性はある

のでありましょうか。私は昨年、年金証明手数料を無料にする件で、他市の状況に比較して館山市がおくれている実態を示し、直ちにその実施を求めたところでありましたが、実際は新年度という区切りの中でこの4月から実施になったわけであります。値下げとか無料化ということについては非常に慎重で、新年度実施というこれまでの経過から見ますと、今回の値上げについては随分あっさりとして提案してくるものだ、こういう感じを禁じ得ないのであります。10月から実施という緊急性について御説明をいただきたいと思えます。

次に、国の戸籍手数料が値上げになりました。これが値上げの1つの理由とされているわけであります。しかし、だからといって市の手数を国に準じて値上げしたという市は県内30市の中でどのくらいあるのでありましょうか、また近隣の市町村の状況はどうでありましょうか、御説明をいただきたいと思えます。

議案第48号館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第49号館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について、この2つの議案についてあわせて御質問をしていきたいと思えます。

まず第1点は、在宅老人福祉及び障害者福祉の中で根幹的な位置を占めるのがこのホームヘルプ事業だというふうに思います。今回このホームヘルプ事業の利用者の費用負担を増額しようとするものでありますが、これも年度途中での負担料金の値上げということであります。なぜこの年度途中で値上げをするのか、県内他市の状況がどのようになっているのか、あわせて御説明をいただきたいと思えます。

次に、今回のこの値上げに当たり、利用者負担の料金体系の問題について、在宅福祉の重視と言いながら、実際このホームヘルプサービス事業の利用者の負担額は高いのではないかと思うのであります。例えば、ショートステイにお世話になりますと、利用者の負担は飲食代相当額ということで1日1,970円。基本的な考え方は、食事の実費以外は公的な負担で、利用者負担はゼロということであります。これに比べて、在宅支援のホームヘルパーについ

ては、生計中心者が所得税課税世帯となりますと有料となります。それも所得階層ごとに細かく区分され、最高額では今回の改定で時間 880円にしようとするわけであります。この 880円は、ヘルパーの時間給をいわばそのまま利用者の負担にさせるというものであります。ホームヘルプ事業を公的事业として考えると、割り切れないものを感じるのであります。ホームヘルパーの派遣についての負担の考え方がありますが、他のショートステイ等の負担の基本的な考え方に比べますと、かなり問題があるのではないかと思うのであります。どうお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思ひます。

次に、このホームヘルプ事業に関連をしてお尋ねをしたい問題がございます。現在社会福祉協議会を中心にいたしまして介護教室が開かれております。こうした現行の介護教室等を抜本的に充実して、介護技術や公的ヘルプ事業などについての市民の理解を広めていくということが今後の在宅老人福祉等の中で極めて重要な事柄ではないかと思うのであります。

ホームヘルプ事業につきましては、現在高齢者を身近に抱えている多くの市民にとっては、寝たきりになってしまったときの父や母の介護をどのようにやったらよいのかという介護技術、あるいは介護のためのさまざまな機器についての知識、あるいはまたそういう状況に立ったときに市民がどのようなサービスを市など公的な機関から受けることができるのか、さらにまた、介護に当たり、介護を受けるお年寄りの気持ち、心理はどのようなものなのかなど、介護の上で基本的に重要と思われる事柄がかなりあるわけでありまゝす。こうしたことを多くの市民が理解をしていくということは、極めて重要な、切実な問題かと思ひるのであります。現在社会福祉協議会が開いている介護教室もそういう意味で大変重要なことだと理解するわけでありまゝすが、その受講者の数やその講義の内容等を見ますと、もっと思い切ってこの事業の内容を充実していくことが今重要なのではないかと感ずるのであります。

この館山市では、介護についての技術や市のサービスの内容についての知識や老人心理学の基礎などの知識や技術が多くの市民にとって、いわば館山市民の一般常識だと言われる水準にまで普及を図っていくことが今求められると思ひるのであります。市民ぐるみの福祉ということで、そういったすそ野

を広げていくということが今市の福祉の水準を決める上で重要なポイントだと思います。また、こうした広いすそ野があればこそ、パートのヘルパーさんや常勤のヘルパーさんなども大いに育てていくことができると思うのであります。そうした点から、介護教室を、現行行われているものをぜひ抜本的に充実する方向で検討いただきたいと思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

次に、市の在宅障害者のいわばショートステイとも言うべき館山市在宅重度身体障害者短期保護事業実施要綱によりますと、利用者の費用負担の問題について、最高額で1日 6,000円ということがあります。寝たきり老人等のショートステイでは、最高額は 1,970円でありますから、随分この扱いが違うわけであります。身体障害者等の短期保護事業でも、寝たきり老人等と同じように、この利用者の費用負担は食事代相当にとどめるべきだと思うのでありますが、いかがでありますか。

次に、議案第50号館山市婦人会館の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定についてお尋ねをいたします。婦人会館は大変便利な場所にあり、しかも利用料金も大変安いために、私自身も時々利用させてもらっておりますが、いつ見ましても利用率が高く、予定がいっぱいで、あきのないときもございます。市の社会教育施設の中でも利用率の大変高い施設の一つではないかと思うのであります。かつてはここで結婚式を挙げたという友人もたくさんおりました。それらも含めて、これまでもたびたび利用してきた者の一人として、婦人会館の廃止ということは寂しい気持ちもいたします。

これほど利用者の多い施設であります。利用できなくなることで各種団体などに御迷惑をかけることにもなるかと思うのであります。この廃止の条例では、この施行を公布の日としてありますが、具体的にいつから利用ができなくなるのか、御説明をいただきたいと思います。

また、婦人会館はかなりの利用実績のあった施設であります。新しい施設ができるまでの間、各種サークルあるいは団体、会合などの活動の場として、これにかわる措置としてどのようなことが考えられておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、議案第46号に関する第1点目、固定資産の評価がえについて、現在の地価公示価格は固定資産評価額のおよそ何倍かとの御質問でございますが、館山駅付近の地価公示地点で見ますと、平成5年1月1日現在の公示価格は平成5年度の固定資産税評価額の約3.2倍となっております。

次に、小さな第2点目、税負担についての御質問でございますが、今回の評価がえは、土地基本法第16条の趣旨を踏まえまして、評価の均衡化、適正化を図ることが目的でございます。これによって増収を図ろうとするものではございません。土地に対する課税標準の特例措置の拡充や、よりなだらかな負担調整、家屋に対する耐用年数の短縮や一律3%の減価など、総合的かつ適切な負担軽減措置が講じられているところでございます。

次に、大きな第2、議案第47号に関する手数料条例の一部改正についての御質問でございますが、小さな第1点目、第2点目とも一括してお答えいたします。住民票の交付手数料等につきましては、これまで国の戸籍手数料に準じて改定してきたところでございます。平成5年1月1日に戸籍手数料が改定されたことによりまして、当初4月1日改定を検討いたしましたが、近隣市町村の動向等を踏まえまして、10月1日に改定しようとするものでございます。

なお、館山市を除きます安房郡市10市町村のうち、9市町村は4月改定、1町は5月に改定されており、すべて改定済みでございます。また、県内では、3市が4月に改定され、他市は検討中と伺っております。

次に、大きな第3の議案第48号及び49号にまつわる問題、その小さな第1点目、年度途中の値上げ理由と県内他市の状況についての御質問でございますが、ホームヘルプサービス事業は国の要綱に基づき実施しておりますが、今回平成5年7月1日に費用負担基準の改正があり、館山市におきましても国の費用負担基準どおりに改正をお願いしようとするものでございます。

なお、県内他市の状況につきましては、7月の1日から実施しておりますところが7市、10月1日改正を予定している市は館山市を含めまして5市でございます。

次に、小さな第2点目、ショートステイ事業と比べて費用負担額は高いのではとの御質問でございますが、ホームヘルプサービス事業につきましては人件費に相当します金額を利用者負担額としております。ショートステイ事業は飲食費相当を利用者負担額としております。在宅福祉制度の中でもそれぞれ別の制度でございまして、一概に比較することは困難と思われま

す。次に、小さな第3点目、介護教室等に関する御質問でございますが、現在館山市社会福祉協議会で支部単位に介護技能の習得や地域ボランティアを養成することを目的とした介護教室が実施されております。今後とも介護の知識や技能、あるいは公的福祉サービスの周知に努めてまいりたいと存じます。

次に、小さな第4点目、短期保護事業の負担額についての御質問でございますが、国の身体障害者短期入所事業運営要綱におきまして、生活保護世帯以外は理由別を問わず同一の金額に改正されましたので、現在要綱改正の準備を行っているところでございます。

次に、大きな第4、議案第50号にまつわります婦人会館関係のことにつきましては、教育長より答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 次に、大きな第4の小さな第1点目、婦人会館の使用ができなくなるのはいつかの御質問でございますが、この条例を廃止する条例の施行期日は10月20日を予定しておりますので、同日より使用することはできなくなります。

次に、第2点目の代替措置についての御質問でございますが、婦人会館を多く利用されている団体の方へは説明会を実施し、公民館を初め、図書館、学習等供用施設、教育センター等の社会教育施設を利用させていただくと

に、広報等を通じまして広く周知を行い、御理解をいただいているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 46号の固定資産の評価がえでありますけれども、3.2倍ということで、これが一応全体的な傾向かな。個々に具体的に見ると相当ばらつきはあるんだろうなということは思いますけれども、一応の傾向だということで、この結果、増収を図ることを目的とするものではないんだというお話でありましたから、ということは、市民の税負担としては基本的には — 個々の人を見ると、均衡を図るからふえちゃう人もいるし、逆に安くなったという人も出るけれども、トータルで見ると、市の増収にはならない、具体的には増税にはならないんだというふうに理解をしいのか。先ほどのお話だと、増収を図ることを目的とするものではないと言いつながら、結果的に見るとかなり増税になったということでは説明がつかない話ですので、その辺はどういうふうに — 建前は建前でわかりますけれども — 現況を見ておるかということです。

それから、手数料条例の問題であります、近隣、安房郡市ですか、これが既に実施しているから、これに合わせて館山市も今回値上げだというわけでありまして、同時に県内30市の中で実施は3市というお話でもございますから、県内の30市の中ではまだそうは行われていない。県内30市の動向を見ながら判断をするのか、近隣を見ながら、そちらを重視して判断するのかというところが今回のこの提案をする場合にお考えになったことなのかなという気はするんですけれども、ここでこの値上げによる増収 — 具体的にはそう大きな金額という — 市の財政上の問題としては大きな問題ではないんではないかなということも考えられますので、一応具体的な金額、増収をどの程度と踏んでおるかという点をお聞かせいただきたい。

それから、ホームヘルプ事業でありますけれども、今回提案をした理由は理由として、御説明という意味ではわかりましたけれども、この在宅福祉ということで、どうも私もいま一つ得心がいかないといひますか、どうも制度上の矛盾があるんではないかなという気がするんですけれども、ホームヘル

パーさんの事業を今後どんどん推進して、いわば在宅福祉の柱ということで考えていくんだとすると、使い勝手がいいといえますか、住民にとって非常に利用しやすいというような制度として発展させるということになるわけですが、そういういろんな側面がありますけれども、料金という問題から見ますと、人件費相当分ということで、これが利用者の負担——最高額の場合ですね。段階がありますけれども——ということをやったり、所得によっていろいろ区分けがあったりとか、こういうあり方というのはちょっと問題を感じるんです。これに対してショートステイの方は食事代相当ということですから、24時間ヘルプ事業を受けているわけです、施設の中で。しかし、その人件費というのは——人件費もそうですし、いろんな施設の利用料という点でも全部基本的にはただなんです。かかるのは食事代だけだということで、これは利用者の立場からすれば、非常に使い勝手がいいという施設として、今後の在宅福祉の上でも非常に大きな役割を果たすなという感じがするんですけれども、ホームヘルパーについてはかなりやはり人件費相当額は利用者の負担という考え方——国の基準として出されているということはわかるんですけれども、それはちょっとどこかで考えないといけないんじゃないかな。

端的な話を申しますけれども、所得がたまたまあるからということで、最高額の時間 880円ということで負担をするというケースの方でも、在宅でこのホームヘルパーの派遣を受けるということと、それから実際に例えば施設に入所するということを考えると、財政負担としては大変な負担を市は負わなきゃならないという問題を持っているわけです。公的な利用者の負担ということで持っているわけですし、まして病院などによく言われる社会的入院なんていうようなことになると、大変な負担が公的な負担として出てくるわけですから、だから在宅で福祉、ホームヘルパーの派遣ということで頑張ってもらえるという点では、もっと多くの人にそういうことで頑張ってもらおうということも市の施策として重要な点だと思うんです。だとすると、やはりこの人件費負担という考え方は市も考えなきゃならない問題としてあるんじゃないかなと思うんです。そこいらで、国の制度だからしょうがないよ

という話なのか、その辺は国に対して意見も上げるとか、いろいろ考える余地はあるということなのかどうか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

それから、介護教室の問題でありますけれども、社会福祉協議会ということでいろいろ努力されているんですけれども、海の向こうの川崎市で、その人材養成センターということで、ホームヘルパー、その養成の専門の機関があって、そこでもう 1,000人からの人を養成したということで、非常に川崎市ではホームヘルパーさんといいますか、要するに介護技術、介護能力を持った人をどんどん養成していくという事業をやったんです。来る方は、実際自分の親とか自分の身内だとか、そういう人を将来介護しなきゃならないとかいうことから、40代とか50代とかいう御婦人なんかが中心で、非常に多くの方が受講されて、それで非常によかったということで、主な内容を聞きますと、介護の専門的な技術、あるいは老人心理学とか、あるいは川崎市で行っている公的事業の内容ですとか、こういうことをやっているんです。期間もかなりあって、10回程度の講座でやるとか、また中には夜間の講義もやるとか、いろんな工夫をしてやっているんですけれども、大変たくさんの方が受講して、そういう方の中からまた登録ヘルパーということで、パートのヘルパーになりたいとか、あるいは専門職としての常勤のヘルパーになりたいとかという人もどんどん育ってきて、そういうものが言ってみれば供給源ということになっているんです。同時に、広く多くの住民の中に介護についての知識や技術というものが広がっているというのは大変重要なことで、そういう点から見ると、館山も今介護教室をやっているということで、大変努力は買うんですけれども、もっとやはり内容的に充実させないといけないんじゃないかな。もっと行政の立場から、老人福祉ということの戦略的な位置づけといいますか、非常に重要な事業ということで考える必要があるんじゃないかなということで、その辺の位置づけといいますか、もう少し抜本的に考え直した方がいいんじゃないかなという点なんです。

そういう点から、現在の介護教室の、各やっている介護教室の具体的な日数ですね。聞くところによると、大体半日程度の教室だ――場所によってはもっとやるところもあるんでしょうけれども――ということで、内容的にも

もっと充実させることを考えなきゃいけないんじゃないかなという点を思いますので、その辺をどういうふうにお考えか。

それから、婦人会館でありますけれども、非常に今後施設が充実するということで期待を持つんですけれども、婦人会館のいろんな設計上の問題もちろんあるんですけれども、住民から出されている問題としては、車の利用との関係をどういうふうに考えるかということで、駐車場の問題、これが従来の婦人会館の場合にはいろいろ大変だったということがありますが、そうした問題は今後この中ではどういうふうに考えられているのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） 評価がえに伴い、全体としての税負担はふえないかという御質問でございますが、今回の評価がえは、その趣旨からいわゆる地価公示価格の7割を目標とする関係上、評価額は上昇することが考えられます。しかしながら、今回の評価がえは基本的には評価の均衡化、適正化を図ることが目的でありまして、したがって負担調整措置を講じているところでございまして、個々には差が生じるものとは思いますが、総体としては大きな負担増とはならないものと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 3点御質問ありましたけれども、まず第1点目、手数料の条例改正の関係でございますけれども、この改正に伴っての増収ということですが、年間としては約720万円、今年度、平成5年度はこれから半年ですので、350万程度の増収ということでございます。

それから、2点目のホームヘルパーの関係の人件費負担という考え方を見直したらどうかということでございますけれども、これはあくまでも、先ほど市長が答弁しましたとおり、国の基準に従って毎年改定を行っているわけでございます。この比較ということになりますと、いろいろ難しい面がありますけれども、繰り返しになりますけれども、あくまでも現行の制度でこれからもやっていきたいというふうを考えております。

それから、3点目の介護教室の関係でございますけれども、この介護教室の関係につきましては、現在社会福祉協議会の主催によりまして相当回数をやっております。それから、県の主催事業として、年2回巡回教室として行っているわけでございます。それへの市民の参加は年々ふえてきておりますけれども、現行のこういった介護教室に一人でも多くの市民が参加する体制、さらには内容の充実をこれからも図っていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 新しくできます婦人会館の跡地の施設につきましては、利用の車の駐車ということでの御質問でございますけれども、現時点といたしましては、18台ということを経営には考えますけれども、一部それ以上のものを場所によっては置くことができるのではないかと、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 議案第46号館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について質問を申し上げたいと思います。

まず第1点は、第61条第9項の住宅用地にかかわる固定資産税について御質問を申し上げたいと思います。バブル経済の崩壊以来、地価は非常に下がっております。そのことが非常に金融界でも問題になっているぐらいでございますけれども、こうした中で評価がえが平成6年度に行われるわけでございますけれども、地価がこのように下がっているわけでございますから、固定資産税も下がるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、そこがそういかないということになると、どうしてか、こういうことをひとつわかりやすく教えていただきたい、こういう観点から質問を申し上げる次第でございます。

そこで、この61条9項の住宅地の固定資産税にかかわる課税標準の2分の

1の減額を3分の1の額にしていく、こういうことでございますけれども、この2分の1から3分の1になることによってどの程度の効果が出てくるのか示していただきたいと思います。具体的には、平成6年度に評価がえする課税標準額と、評価がえによる上昇率と上昇金額はどの程度になるのか教えていただきたいと思います。

2番目に、第144条の2項になるわけでございますけれども、これは固定資産税の中の都市計画税になるわけでございますけれども、都市計画税も同じような措置が講じられるわけでございますけれども、固定資産税についてもあわせて61条9項同様に説明を願いたいと思います。

3番目には、附則第14条の負担調整が提案されているわけでございますけれども、この負担調整による課税標準額の実際の金額はその基準年度、第2年度、第3年度ではどのように変わっていくのか、説明をお願いしたいと思います。

4番目に、関連をして、現在の市内の住宅用地の全体の課税標準額は単純平均で平米幾らぐらいなのか、またそれを坪に直すと、坪幾らぐらいになっておるのか、平均値をごく最近の数字で示していただきたいと思います。

もう一つは、先ほど神田議員からも質問がございましたけれども、国の実施している公示路線価格とその評価額におきますところの差額はどのぐらいの比率になっておるのか。館山市は3カ所が指定されまして、新聞発表等されているわけでございますけれども、この2～3年非常に下がっております。説明によりますと、リゾート開発でもって急速に値上がりしたので、その反動でもって、県南の過疎地域でありながら、やはりこの公示価格の値下がり大きな幅を示しておる、こういうことをつけ加えておったわけでございますけれども、その点についてどうなっておるのか教えていただきたい。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第46号、市税条例の一部改正に関しての御質問でございますが、小さ

な第1点目、第61条に関し、住宅用地の固定資産税課税標準額が改正前と比較して、どの程度上昇するかとの御質問でございますが、現在調整中でありまして、千葉県固定資産評価審議会を経て、指示平均価格が示される予定でございます。

次に、小さな第2点目、第144条に関します都市計画税について同趣旨の御質問でございますが、固定資産税同様、今後示される予定でございます。

次に、小さな第3点目、条例附則第14条、固定資産税の負担調整に関する御質問でございますが、評価額の上昇により負担調整が異なりますが、今年度の税額の1.05ないし1.2の範囲内で調整されることになっております。

第4の、平成5年度における住宅用地の課税標準額の平均でございますが、1平方メートル当たり2,784円となっております。また、館山駅付近の地価公示地における固定資産評価額は、地価公示価格の30.7％となっているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 数字的なものが出ないと具体性がないわけございまして、私は再質問の中で細かいことは申し上げませんが、先ほども申しましたように公示地価が下がっているわけでございます。実際の売買地価も相当下がっておるわけでございます。だけれども、6年度になると当然、場所によっては3倍ぐらいというんですか、かなりの上昇率が出てくる。安くなるところが具体的に出てくるのか出てこないのか。全体的には、ここでもって2分の1を3分の1にするんですから、相当の値下がりがするだろう、来年度には。だろうということを言っているわけですから、一般的には我々としては地価が下がっているんだから固定資産税下がるの当たり前だろう、こういう一般的な考え方。しかしながら、実際には固定資産税が来たら物すごい高くなっている。こういうことでは説明のしようがないので、その点について数字が出せないということであれば、そういう市民感情からいって、館山市の地域の中でもってこの固定資産税が来年の評価がえによって下がる、また今回の2分の1から3分の1への改正措置を講ずることによって

下がるということがあり得ると思うんですけれども、その点そういう見通しはあるのかなのか、この点についてお答えをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斎藤賢司君） 今回の特例措置等を含めて下がる例があるのかという御質問でございますが、今回の土地の評価がえにつきましては、土地基本法における公的土地評価相互の均衡及び適正化を図ることを目的といたしまして、地価公示価格の7割を目標とするものでございます。したがって、評価額はある程度上昇することが見込まれます。したがって、その結果、今回それぞれ土地に対します特例措置、負担調整等を講じまして対応するということになっているところでございます。また、家屋等につきましては、在来家屋につきましては3%の減価が措置されておりますので、そういう意味で総体的には大きな負担増とならないものと考えているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 大きな増にならないだろうというのはわかっているんですけれども、減額になるところがあるのかなのかということ。

それで、これは10日ぐらい前のNHKの特集の中でやっておったんですけれども、全国の440カ所の地点において土地評価額を調査して、公示価格との差額について調査をしたそうでございます。千葉県のかつしかの中の——館山市がそこに入っておりまして、その館山市の路線価におきますところの課税割合は20%から50%の範囲内にあるということが発表されておりました。東京とか千葉の方に行きますとかなり安いんですけれども、田舎の方に行きますと70%、80%というのがあるわけなんですけれども、全国平均的には大体路線価の35%前後ぐらいのものが一般的になっておる。これは市町村が公表していないのもってわからないということが前提でございますけれども、今の答弁でまいりますと、路線価の70%という把握は——NHKが調査をして、これは公示価格をやった3カ所のうちの1点だけが公表されたわけですから、その1点について調べたものですから、全体の割合はわかりませんけれども、20%から30%の中に館山は入っているということが明らかにされた

わけですけれども、70%ということになると、ちょっとその差が広いんじゃないか。そのいろんな専門家の討論の中でもって、やはり固定資産税を上げることは住民負担になっていくので、この割合を路線価の70%にするのか、50%にするのか、30%にするのか、それは地方自治体の自主的な判断でできるということですから、地方自治体の財政とあわせてその面については調整可能なわけでございます。標準額が決定しますと、税額は1.4%これはもう自動的に掛けると法律で決まっていますけれども、課税標準額の決定については任意性があるわけですから、その点については、70%というのは全体的な数字が70%なのか。全国平均が35%ぐらいということでございますから、館山市の場合にはかなりその掛けぐあいが高いように思うわけでございますけれども、この点はどうなのか、ちょっとわかりやすく教えていただきたい。

先ほどの、上がるのはわかっているんですけれども、下がる場所があるのかないのかということを一地域はどこでもいいです。多い少ないは関係なく、そういうことがこの条例の改正によってあり得るのかどうか、この点だけを簡明にひとつ御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） まず1点目、下がる場所があるのかという御質問でございますけれども、前回、平成3年度の評価がえを行う場合は前々年の7月時点での評価額を適用しておりますので、そういう意味では相当以前のものになっておりますから、その時間的経過がございますので、今回地価公示価格の7割を目標とするということでありまして、ある程度の上昇はあるというふうに考えております。

それとあと、評価につきましてその7割を選択できるのかという御質問でございますけれども、固定資産の評価につきましては、先ほど言いましたように、土地基本法の趣旨を踏まえまして、自治省から評価手順等が示されておりまして、その中で鑑定評価を取り入れ、地価の公示価格の7割を目標とするということにされておるところでございます。この評価基準に達しない場合につきましては、地方税法の規定に従いまして、いわゆる都道府県知事等からの修正勧告がされるという形になります。したがって、この評価

額は全国的な評価水準につきまして均衡化、適正化を図るという大きな目的がございしますので、その関係で全国的に今不動産鑑定評価も取り入れまして調整しているところでございます。その趣旨から、7割の程度で全国的な水準として統一されていくのではないかなというふうに考えておりますので、これを5割にできるとかという選択的なことは難しいかなというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第46号乃至議案第50号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第2、議案第51号及び議案第52号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 議案第51号、補正予算について4点にわたりました御質問を申し上げたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

まず第1点は、この議案書、補正予算案の10ページ、ここの総務費の中の企画費中、第9節旅費 313万円について御質問をいたします。説明書では、

ビーチ利用促進事業並びにウエルネスリゾートパーク事業の先進地行政視察と国、県への連絡旅費ということになっておりますけれども、先進地の視察はどのような内容のものを予定しておるのか、そしてどんな方たちが視察をして、その目的は何であるのかお伺いしたいと思います。

2番目には、国、県への連絡とありますけれども、補正予算でかなりの額を盛っておりますので、国、県への連絡というのはどのような内容のものなのか、そしてどういう人たちがどのぐらい行くのか、その点について、概略で結構でございますからお示しをいただきたい。

以上の視察結果はどのように活用されるのか、そしてどのように緊急的な必要性があるのか、この点についてあわせて御説明をいただきたいと思います。

第2番目の項目でございますけれども、11ページ、農林水産業費の中の漁港建設費、15節工事請負費 2,400万円について御質問を申し上げます。説明書では、波左間漁港の施設を整備をして、沿岸漁業と観光漁業の調和のとれた漁業の振興と地域の活性化に役立てるということでございますので、現在リゾート計画が先行き非常に難しいと言われている中でもってこうした事業を行うということについては評価をいたしたいと思います。そこで、この事業が滞りなく立派に実施できるようにしていただきたいと思ひまして、私は4つの点について確認を含めて御質問を申し上げたいと思うわけでございます。

その第1は、この2,400万円の工事は漁港整備ということになっておりますけれども、どんな内容の工事なのか。すなわち、どのようなものがどのぐらいの広さ、またはどのぐらいの規模でつくられるのか教えていただきたい。漁港の整備といってもどういうことかわかりませんので、その点を教えていただきたい。

2番目に、港湾整備の場合には、公有水面の埋め立てということ、または海岸砂地の造成ということでもって許可が必要になるのが当然でございますけれども、この点については今回行う工事場所については抵触するのかわからないのか、この点についての確認がなされたのかどうか、この点についてひと

つ御説明をいただきたいと思います。

3番目には、県の事務所でたまたま伺ったことでございますけれども、これは9月の13日の日でございますけれども、海岸埋め立ての申請書が県に出されておらないので、館山市で予算化して事業をするということになると、許可がおりないうちに事業着手すると、無断占用というんですか、無断造成というようなことでもって大問題になるので、それは本当ですか、こういう指摘を受けまして、当然申請は出ているだろう、こういうふうに話したところが、出ていません、現時点では。いいことを教えてもらいましたので、早速市の方へ問い合わせ、無断占用というんですか、無断造成がないようにひとつしてもらわないとお互いに困りますからということでもって、早速市の方に連絡をしたようでございます。17日の日に、昨日といいますか、16日の日におかげさまで市の方から申請書を持ってきましたので、十分審査をして、結果をできるだけ早く市の方に報告いたします、こういうことが事務局の方からお礼かたがたあったものですから、それはよかったですね。市がどんな手違いで出さなかったかわからないけれども、このまま予算が通り、工事に入っちゃって、後でもって無許可だということになりますと、市が模範を示さないものが無許可で海岸を埋め立てたりなんかするということになると大変なことになるということでもって、お互いによかった、こういうことで、一段落着という感じでございますけれども、どうしてこういうようなものが、県から指摘されるまで書類が出せなかったのか、この点について、事情があるやに思うわけでございますけれども、御説明をいただきたい。

4番目には、港湾の整備の場合、国、県から多額の補助金がありるのが通例でございます。本年度の予算では、洲崎の栄の浦漁港の修築費が3,765万円計上されておるわけでございますけれども、そのうち80%に当たる3,200万円が県の補助でおりているわけでございます。昨年度も、同じ1種漁港である川名漁港の場合も県から予算額の80%が補助として交付され、予算執行がされているわけでございますけれども、今回の場合、市の単独事業で行わなければならない理由はどこにあったのか。せっかく漁港を観光と沿岸漁業の振興のために役立てようということでございますから、2,400万円を出せ

れば、その80%が補助金でもらえるわけですから、9,600万円の補助金がお
りるわけでございます。そうすると、1億2,000万円の工事ができるわけ
でございますから、随分もったいない予算の支出をするんじゃないか。館山市
も随分金の余るような執行のように思われるんですけども、財政難の中
でもって、手続をとれば2,400万円の自己負担で1億2,000万円の工事ができ
るわけでございます。地元の人にとっても2,400万よりも1億2,000万の仕
事ができた方が非常にいいものができるかと喜ばれるわけでございますけれど
も、こういう喜ばれるような措置をとれなかったのか、この点について経過
を御説明をいただきたいと思います。

第3項目、13ページの都市計画費の公園費の中の13節委託料500万円で
ございますけれども、この予算はウエルネスリゾートパーク事業の調査委託料
となっておるわけでございますけれども、ウエルネスリゾートパークについ
ても胸突き八丁にきていて非常に苦労しているところでございますので、そ
うした観点から御質問したいわけでございますけれども、まず第1は、ウエ
ルネスリゾートの現在の進捗状況と、今回の調査項目はどのようなものを対
象にどのような調査をしようというものであるのか、この点について御説明
を願いたいと思います。

2番目に、今回の調査の必要性和、その活用はどういうところにされるの
か、あわせて御説明を願います。

4項目の質問に移ります。同じページの下にある土地区画整理費中、第13
節委託料895万円について御質問を申し上げます。この委託料は館山駅橋上
駅舎建設基本調査委託料でございます。通告質問で論議をしましたので、そ
の点については省略いたしますけれども、3点についてお伺いをいたしま
す。

今回実施する基本調査の内容は、橋上駅舎のどういうところ、どういうも
のを対象にして調査をしようというものか、その内容を明らかにしてもらい
たい。従来駅周辺のものだとか、駅そのものの調査とか、いろいろやってき
ておりますけれども、今回の場合にはどの範囲のものなのか、その点を教え
ていただきたい。

2 番目に、この調査結果についてはどこでどのように活用されるのか、その活用先について教えていただきたい。

3 番目には、館山駅は当然ＪＲの施設でございます。これまでは国鉄の指定業者に依頼をして調査をしてきたわけでございます。国鉄の指定業者以外は国鉄の駅舎の改築その他はできないんだそうございまして、そういう関係でもって、駅の方で指定された業者に委託をして、そして駅の方の方針でいろんな調査結果というのが出されてきておって、あながち地元の要求——特に私が言うのは、今までの東口の再開発事業の準備会、研究会で出した要望が十分満たされないままに出てきた結果でもって、多少その結果に不満なりその他があったということを知っておりますし、私もそれらの討論会に参加いたしまして、これはぐあい悪いなというところも幾つかあったわけでございますけれども、そうした点について、今回はどういう方面にその調査を依頼するのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

以上、4 点の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第51号に関しましての大きな第1、総務費中、企画費の旅費についての御質問でございますが、普通旅費につきましては、ビーチ利用促進事業、橋上駅舎建設促進事業等にかかわる国、県及び関係機関との協議や現地視察などに必要な旅費でございます。特別旅費につきましては、平成4年度にビーチ利用促進モデル地区に指定されました宮崎県宮崎市の海岸とその周辺のリゾート整備など、先進各地を担当者が視察し、事業の一層の推進を図るための旅費でございます。

次に、大きな第2の水産業費中、漁港建設費の工事請負費についての御質問でございますが、第1、工事内容と規模については、マイナス2メートルの物揚げ場を長さ22.5メートル、護岸を長さ9.5メートル設置するものでございます。

御質問の2、3、海面、海岸砂地の利用の申請及び許可については、本工

事は海岸砂地を利用して行うため、県に漁港の区域内における行為についての協議書を提出しているところでございます。

4の補助金につきましては、波左間漁港は、その位置からしても、館山市観光振興の一拠点としての利用を図るべく、大切な地域であると考えておりましたところ、平成6年4月から海の観光を目的としました船を運航したいとの話が具体化してまいりましたので、館山市の単独事業で本年度中に施設整備を行おうとするものでございます。

次に、大きな第3、公園費の委託料についての御質問でございますが、ウェルネスリゾートパーク計画の事業化を推進するに当たりまして、導入施設及び規模等についてアミューズメント地区を中心に調査を行うものでございます。今回建設省におきましてリゾート関連の施設のその周辺地区への波及効果等の調査を行うということになりました。これと連動しまして、館山市におきまして立地可能調査を実施しようとするものでございます。そこで、このたび補正予算をお願いしたところでございます。

次に、大きな第4、館山駅橋上駅舎建設基本調査についての御質問でございますが、この調査は、館山駅橋上駅舎の建設に向けまして、整備手法とその技術的可能性の調査検討を行うものでございます。

第1、調査項目としましては、館山駅の将来の利用者予測、東西自由通路及び駅舎の位置の検討、自由通路及び駅舎のレイアウトの検討等を予定しております。

2としまして、調査結果の活用につきましては、館山駅橋上駅舎建設促進協議会等と協議の上、今後実施いたします概略設計、詳細設計等に活用してまいります。

3としまして、調査の委託先につきましては、JR関連事業でございますので、JRと十分協議してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 第1点の委託料については了承しました。ひとつウェルネスの充実した事業が推進できるようにお願いをいたしたいと思いま

す。

2番目の漁港整備の問題でございます。まず第1点は、当然申請が出たわけでございますから、これは許可事業になるのかならないのか。許可申請を出したわけですから、許可がおりてから事業に移る、こういうふうになるかと思うんですけれども、それは当然そういうことでやる予算を計上したということになりますでしょうかどうか、この点が第1点。

2番目には、平成6年に観光船を発着させるということでもって、それに合わせて単独、こういうことであつたわけでございますけれども、それは非常に平成6年の開港は結構なことだと思います。できるだけそういうふうになることが望ましいと思いますけれども、一つは、今のリゾート状況、開発状況からいって、そんなに急がなければならないものかどうか、その必要性が第1点。

第2番目には、そういうわけでもって、市の単独事業でもって平成6年にやるのでやりました、こういうことであるけれども、市の方としては、港湾整備については補助金等もあるので、来年度の予算まで待ってもらえば1億円近くの予算が浮いて、そして4倍の充実した施設ができるだろうけれども、それの方がいいんじゃないか、こういう話し合いというものはなされなかったのかどうなのか。安物でもって応急的に——2,400万は安物かどうかわかりません。補助金をもらえば1億2,000万円になるわけですから、1億2,000万円かけた方がずっといいものになるのはわかっているわけですから、将来的な展望から見て、そういう措置がとられないということについては非常に不自然な感じなんですけれども、今後この点については予算執行した後に、国、県の補助金をもらえるというんですか、後からもらえるということはあり得るのかどうなのか、その点について。これから申請を出して、できるだけ早い期間に、平成6年に間に合わせるような形の中でもってせつかく2,400万円の予算を出したわけですから、これを1億2,000万円にして仕事をするんだ、こういうことは考えられないのかどうなのか、この点についてお問い合わせをいたしたいと思うわけでございます。

それから、3番目の点についても、これも調査のことでございますから、

これは1項同様了解いたします。

4番目に、駅の設計でございますけれども、調査を出す場合に、ある程度建設促進協議会、そうしたプロジェクトの中でもって、通告質問でしましたように、こういう構想の駅にしたいんだ、東口の方はこういうものにしたいんだということが出た上でないと、調査というのはなかなか進まないんじゃないかと思うんです。ただ、今の状況の中でほんと頼んで、駅舎はこういうふうにしたらいというような格好で出てきたんでは——乗降客の数というのは県の数字や何かでもってあるわけですから、これは簡単に、特に委託しなくても調べられるわけでございますけれども、そうした点についてこれまでも何回もやってきているけれども、でき上がったものについては、そうしたところの声を反映した上で、こういうことでもって委託しようよという形で出ないと、逆にこういう委託結果が出たからどうですかということでもって協議会へかけるについては、かなりむだというんですか、ぎくしゃくができるような感じがするわけでございますけれども、そうした点については今まで何回か調査をしてきた——私は具体的に調査結果表というのは3回見ているわけでございますけれども、全部没になっちゃっています。また今回、私としては4回目になると思うわけでございますけれども、それが出るわけでございますして、今回は私としてみれば4度目になるわけですから、そこら辺についてひとつ実現可能なものにしていただきたいと思うわけでございますけれども、その点についてはやはり地元との話し合い、それから予算項目についていろいろなこちらの主体的な要望、こういうものは委託するまでの段階に作業が進められるのかどうなのか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） まず、水産業費の御質問についてお答えいたします。

最初の御質問でございますが、工事の着手については、現在協議申請書が提出されておるわけでございますが、それがおりてから着手するのかという御質問でございますが、そのとおりでございます。

続きまして、本年度補正予算で実施する事業についての必要性という御質問でございますが、館山市の場合には海洋性リゾートタウンのまちづくりというようなことで、海の活用というようなものが一つの大きな課題になっておるわけでございます。また、この地域に立地しております既存の観光施設でございますが、観光定置網、それから19面のテニスコート、またバーベキューセンターというような施設があるわけでございますけれども、入り込み等多少陰りが見えているというような状況でございます。今度のこの計画が実施されることによりまして、そういう既存の観光施設との有機的な連携、それぞれの施設が相乗効果を十分期待できるというようなことで今回お願いをする、こういうことでございます。

それから、補助金の関係でございますが、1年待てば補助事業として実施できたのではないか、その辺について企業と話し合いをしなかったのかという御質問でございますが、企業につきましては、早い時期にいろいろ調査等を当地において実施をしていたというようなことでございまして、当初どおり平成6年4月から運行を開始したいという強い要請もございまして、本年度基盤の整備を実施する、こういうことでございます。

それから、補助金が事業実施後につかないかというような御質問でございますが、大変これは困難ではないか、このように考えております。難しいというふうに判断をいたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 次はその点について要望的な質問をしたいと思うわけでございますけれども、非常に即効性のある市長の態度というんですか、施策、非常に歓迎するところでございます。館山市はどちらかというと物事に対しては非常にのろいのもあって、後手後手へ回るので、手際よくやったということについては高く評価いたしますので、ひとつそういうことで実現をしていただきたい。

そこで、2点だけ伺っておきたいと思うんですけれども、一つは、あその西岬はリゾート開発に絡んで、若い人たちがグループをつくって、サンフ

ラワー研究会というんですか、これをやって、非常に意欲的にやっておる。これまでもテニスコートだとか定置網の観光船とかというものを意欲的にやっております、我々も評価しているわけでございますけれども、これまでの経過の中で、地元の人たちがいろんなこういうプロジェクトなり計画でもってやりたいという要望を市の方へ出しても、予算がないからそういうのは無理だというようなことでもって、なかなか実現性がないということも言われておるわけでございますが、やはり地元のそういう若い人たちの研究グループ、経営者の人たちに対しては即効性のあるやはり対応というのが必要じゃないか。ちょっとそこら辺についてはアンバランスなものがあるんじゃないか。館山におきますところのいろんな同じような民間団体、地元の人たちが推し進めているような計画もあるようでございますけれども、これらも何か門前払いのような形の中でもって、即効性どころでなくて、全然話にならないというようなことがあるわけでございます。今後そういう面については、やはり地元のそういう人たちを優先的に、やはりそういうものを即効力を持ってどんどん、どんどんやっていく、こういう方向にやっていただければどうかということが質問でございますので、お答え願いたい。

なお、参考まででございますけれども、今回出てくる業者というものが、株式上場されるようなところじゃなくて、沖縄ですか、奄美大島ですか、向こうの方の小さな実業家でもって、非常にまじめにやっているということですが、どの程度でどうかということについては全くわからないのもあって、そうしたところの経営の資本金だとか経営者の動向なり、そういうふうなものについては確認されたのかどうなのか。これは悪い意味では——ゼネコンというのは悪いんですけれども、館山へ来ている国土開発だとか熊谷組だとか鹿島というのもかなりつき合いがあるわけございまして、そういうところだったら資本的にも技術的にも安心なんですけれども、全く聞いたこともないそういうあれになりますと、果たしてどうかなという感じもあるんですけれども、せっかくそういうところからやって来るということですから、市が手を差し伸べることはやぶさかではございません。また、これを機会に、地元の人たちがやりたいものについても、やっぱり今回と同じように

ひとつ即効力のある財政措置、対応をお願いしたいということでございますから、その点についてはどうであるのかお答えをいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

今御質問の中に、地元からの要望に対して対応がちょっと遅いんじゃないかという御質問でございますが、確かに予算等の関係もございますけれども、地元からそういう有意義な計画等、話がありました場合には、御指摘のとおり前向きに対応してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（福原 勤君） ただいま議題となっております議案第51号及び議案第52号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

延 会 午前11時25分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明21日午前10時開会とし、その議事は平成4年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第46号乃至議案第52号

